

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200388		
法人名	有限会社 サン企画コーポレーション		
事業所名	グループホームゆかりの里苑		
所在地	大和高田市松塚850-3		
自己評価作成日	平成28年6月20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2970200388-00&PrefCd=29&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三度の食事はその都度手作りをしています。らっきょの掃除、ジュウス用のシソの葉を摘んだり、もやしの根をとったり、食事の下ごしらえのお手伝いをいただいています。尿漏れ改善のためボールを使って体操をしていただいています。くもんの学習療法では脳の活性化につながるよう、またその方のいろいろな思いをお聞かせいただけ、ケアにつながるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近鉄大阪線松塚駅から徒歩5分の便利などところにある。鉄骨2階建ての建物で、2階への階段には、階段昇降機が設置されている。事業所は、食事にこだわり、管理者がつくる有機野菜を使って職員が交代で料理を全て手作りにしている。味だけでなく盛り付けも工夫され、利用者にも好評である。また、脳の活性化のために公文式学習法を取り入れており、利用者は職員と1対1で楽しみながら取り組んでいる。さらに、利用者や家族の思いに沿って、看取りケアにも取り組んでいる。利用者のお家であることを基本に、「家庭的な環境と地域住民との交流を大切にする」ことを運営理念にしたとも家庭的な事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつきやすい所に表示しており、年度初めに自身の抱負も聞かせていただいている。一つの目標に全員同じ方向をむいて日々努力しています。	ここが利用者本人の家であることを基本に、「家庭的な環境と地域住民との交流を大切にする」ことを運営理念にしている。理念を玄関に掲げるとともに職員のロッカールームにも掲示し、職員全員で具体化できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の消防訓練や、クリーンデイ、地域のお祭りにも参加、施設の運営推進会議にも参加いただいています。	自治会に加入し、清掃活動や地域の行事にも参加している。毎年地域の小学校2年生が社会勉強の一環とする事業所見学を受け入れている。また、管理者がボランティアとして、小学校に防災頭巾づくりの指導に行くなど地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置施設として認識頂き、必要な時にはお使いいただけるよう、また介護保険や高齢者の方の相談は、いつでも可、運営推進会議でもお伝えしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の入居状況や、最近の取り組み、行事等、運営推進の会議に必ず報告している。	運営推進会議には、市の担当職員や地域包括支援センター職員、地域の総代、民生委員、老人会会長などが参加して、2ヶ月に1回開催されている。会議では事業所の活動報告だけでなく、地域の課題や行政に対する要望なども話し合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のご案内を地域包括支援センター・介護保険課にしており出席していただいております。行政からの助言も頂いています。	運営推進会議において市担当職員と情報交換している。管理者は、市と連携していきいき百歳体操などの介護予防事業にも積極的に取り組んでいる。また、生活保護の利用者も受け入れており、関係担当課と連携して支援している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は勿論、スピーチロック等も正しく理解しています。	玄関の扉は電子ロックを採用しているが、解除していることが多い。「身体拘束をしないケア」を職員で話し合い共有し取り組んでいる。特に、言葉による拘束もないように心がけている。	「身体拘束をしないケア」の項目を、できれば契約書か運営規定の中に明文化すれば、なお良いと思われる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や、ミーティングで話し合い、防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所の方には、成年後見制度や、権利擁護を使っておられる方々がおられました、社会福祉協議会ともいろいろ相談できる関係もあり、よく理解しております。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には必ず面接を行い、不安な事や、疑問点をお尋ねしている。契約時には、項目ごとに読み上げ、説明し、ご理解いただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事でもお話頂けるようお声掛けし、ご意見をいただいています。職員全員が周知出来るよう連絡ノートに記載し、目を通した人は署名するようにしている。	面会に来られた家族には、必ず職員側から声かけをして、日ごろの利用者の様子を伝えるとともに、要望等を聴いている。また、日ごろ面会に来れない家族にも来訪してもらえるよう施設参観日を設けるなど努力している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況等も話しており、職員の感じていることは聞かしてもらい取り組みたいことは、協力しながら実行してもらっている。	毎日の活動の中で、職員は気づいたことや要望等を管理者に伝えている。重要な課題については、月1回の会議の場で提案して、職員で話し合っている。また、管理者は年次に職員一人ひとりに年間目標を立てさせ、意見などを聴く個別面談の機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得て、不得手、を見極め、仕事にやりがいや生きがいを感じてもらえるよう、ミーティング、リーダー会議等で職員の意見を聞いている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の勉強会や研修に参加できるよう配慮している。勤務の調整や、研修の報告もして頂き、互いに共有することで向上できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の夏祭り等に参加させていただき、また小規模多機能、高齢者住宅、グループホームのリーダーさんたちの合同会議を年2～3回予定しています。いい勉強や体験につなげたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず面接をします。その時にはご本人の意向を聞かせていただき、また、入所後はタイムテーブルを取り少しの変化や言動を見逃すことの無いように記録し、ご本人の気持ちに添うようにしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、家族様とじっくりお話をさせていただき、ご要望にお応え出来る様努力し、信頼関係を築いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな時に笑顔があり、どのような言葉でどんな反応があったか小さな変化も見落とすことの無いように、家族様と相談しながら対応しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちは一緒に生活している、家族という立場で接しています。一つ屋根の下で暮らす、親子、兄弟姉妹です。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を支えるのは決して私たちではなく、ご家族様のお力を借り、ともに支えるという共通の目的と、ご本人と家族様の絆を大切にいただく事を一番と考えています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、ご近所、ご本人の取り巻く人間関係を大切にしてお見えいただいたとき、失礼の無いように、配慮しています。	家族だけでなく、以前住んでいた家の近所の方が面会に来られることもあり、これまでの関係継続に配慮している。家族とともに、行きつけの美容院やレストランに出かけられることがある。地域の昔ながらの行事やお祭りを楽しめるように配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事、レク、くもん学習療法時それぞれ関係に配慮し、座っていただく場所などにも考慮しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移って行かれた後も、どのようにお過ごしされているか機会があればお尋ねしたり、家族様にお目にかかった時には気軽にお声掛けしたり、また相談にも遠慮なく仰っていただけるよう、こちらの気持ちもお伝えしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お顔の表情やちょっとした仕草からも見逃すことの無い様に努めゆっくりお話が出来るように心掛けています。会話の中からご本人の思いをお聞きできる時があります。	職員は毎朝利用者一人ずつに挨拶しながら、体調や気分の把握に努めている。脳の活性化のために公文式学習法を取り入れており、1対1で話をしながら取り組み、思いの把握に役立てている。会話ができない方も、表情から思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、生活リズムを大切に、持てる力を伸ばしていける様支援している。これまでのサービス利用の把握により、より一層その方の生活歴を理解できる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や、ADL、その方の持てる力を存分に発揮していただけるよう支援し、楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様にはお話をさせていただき、職員はモニタリングのあと介護計画書をつくり、そのあと皆で話し合いながら介護計画書を作成しております。	利用者や家族の希望をもとに、3人の職員が介護計画案をつくり、みんなで話し合い1つにまとめた介護計画を作成している。モニタリング結果を検討し、半年に1回、更新している。ただ、介護計画は病気やADLを中心にした計画になっている。	介護計画書の「生活全般の解決すべき課題」という表記にこだわらず、利用者の趣味や特技、生きがいなどからアプローチし、笑顔が増えるプランもあればよいと思われる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報は個別の記録が残り、少しの変化があれば赤ペンで記入します。職員全員に周知させるときは連絡ノートに記入し目を通した職員は記名します。日々の介護にも反映させています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変、その日の天気、体調等に合わせて散歩や花見、ドライブ、外気浴などしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお地藏さん、神社、お散歩がてらお参りに行きます。ご近所の方々との挨拶、地域のお祭りなどにも参加させていただき地域住民の一人として暮らしていただいています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に今まで通り受診される場合は、家族さんに同行していただいています。それ以外の緊急時は施設で対応し家族さんにも同行願うようにしています。	月2回、内科のかかりつけ医の往診がある。内科以外の歯科や皮膚科、精神科などの通院は、家族が付き添うことが基本であるが、家族が行けない場合は職員は臨機応変に対応し受診支援を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病気、けが、バイタルの異変、入浴時のボディチェックなど、看護師の力を借り看護と介護の両面で支えています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は常日頃の様子をサマリー等情報提供し、退院時はドクター、看護師、療法士の方々とカンファレンスをし退院時に向け環境を整える。ゼリー食、車椅子、ミキサー食、糖尿食などの対応に備える。病院側からアドバイスを頂く。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りにむけ、家族さんと何度も話を重ね、慎重に対応しております。訪看さん、施設の看護師、職員、ドクター、訪問入浴、お力をお借りしながら、ご本人様に失礼の無いように心配りをしながら対応しています。	利用者本人が重度化したときは、本人や家族の希望を聴き、かかりつけ医や看護師と話し合い方針を書面にし契約を交わしている。家族・医師・看護師それに職員が方針を共有し連携を密にして看取りケアに取り組んでいる。	看取りケアに取り組んでいるにもかかわらず、契約書や運営規定の中に、看取りケアの指針等が示されていない。できれば看取りケアの指針等を明文化し、契約書が運営規定に明記されることが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命、消火訓練、避難訓練を行い、万が一の時には地域の松塚自主防災にも連絡出来るようになっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	松塚自主防災会、松塚自治会の役員の方々に連絡をするようになっている。施設の職員も定期的に訓練を行っている。入居者の方にも参加していただき避難訓練、消火訓練をしました。	事業所はオール電化で、スプリンクラーも設置されている。年2回、消火訓練と避難訓練を実施し、避難完了までの時間も測定している。2階には、避難用の外階段も設置されている。非常時には、地域の自主防災組織の協力を得られる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一度しかない人生、二人といたないその人、最後までその人として生きていただきたいと願っています。人格を損なうことの無いよう言葉づかいには特に注意を払っています。	家庭的な雰囲気の中にも利用者の尊厳を損なうことのないよう、言葉遣いに特に注意を払っている。毎日その人らしく楽しく過ごしてもらえるよう支援している。お風呂やトイレの介助は、利用者の希望に沿って同性介助を行っている	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外へ行きたいな...、お造りを食べたいな...、等言われたことですぐ出来ること、お散歩等も実行しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクの参加や不参加の意思決定、遅くまで寝たい方や早く寝たい方、その人の生活リズムを大切に、希望に添うようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、ご自身で選べる方はその方を選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮をむいたり、切ってもらったり、食卓を拭いていただいたり、食事の形態も、嚥下、咀嚼、その方に合わせて提供させていただいています。施設内での調理で、において食材を当ててみたり、何を作っているか会話が弾みます。	管理者が無農薬野菜をつくり、水にもこだわって美味しい食事が作られている。料理を作るときの音や匂いも感じてもらえるようキッチンの配置にも考慮している。月に2回は、お弁当の日をつくり楽しんでいる。利用者もできる範囲で準備や後片付けを行っていて、家庭的な雰囲気がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お身体の状態、病気等、考慮したうえで分量を量ったり、食事の形態を考えたり、水分、食事量も一目でわかるように日報に記載している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方、できない方、義歯の方、歯ブラシ以外にもガーゼを使用される方等、その方にあったケアをしている。肺炎を無くすためにも口腔ケアには特に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムをハークしておりトイレの前誘導や、オムツの使用も昼と夜との使い分けと使用量にも十分配慮しております。	利用者個々の排泄パターンを把握し、適切なタイミングのトイレ誘導を行っている。座って排泄することを基本とし、布パンツの気持ちよさを実感してもらえるようオムツはずしにも取り組んでいる。居室で一人で排泄しやすいように、ポータブルトイレを設置している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝自家製のヨーグルトにリンゴを入れたものをお食べ頂いています。繊維の多い食材やお野菜もたくさんお食べ頂けるよう調理にも配慮し、日常生活では、移乗、立位、その方のADLにあわせ手洗い、トイレ、ご自身で出来ることは、リハビリと運動を兼ねて頑張らせていただいています		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	汗をかいたり、失禁等の時にも、お風呂の時間帯でなくてもシャワーを使っていただいたりします。毎日シャンプーをされる方もおられます。	基本的に週2回、午後の時間帯で入浴できるようになっている。1階と2階で曜日を変えているので、週4回入る方もいる。脱衣は看護師が行って、皮膚の状況などを確認している。状況に応じ、足浴やシャワー浴も行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休憩や足の浮腫の状態等を見極め少し休んで頂いたり、足を上げたり、足浴をして頂いたり、気持ちよく眠れるように行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や今のお身体の様子、また服薬に関しては副作用や容量、用法も理解し、確認出来る様看護師による指導や連絡ノートにも記載し職員間の情報共有出来る様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものを干したり、乾いたものをたたんだりテーブルを拭いたり、ご自身のお部屋の掃除機をかけていただいたり拭き掃除など出来ることを職員と共に楽しみながらして頂いています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気に合わせてお出かけしたり、少し遠くまで行ったりと、気候のよい時は特にお出かけるようにしています。受診で外へ出かけた時の帰りはスーパーの中を散策しながら帰ります。	天候の良いときは、近くの神社に散歩に出かけたり、玄関を出たところで体操などを行っている。花見や福祉祭りにみんなで出かけることもある。また、大型スーパー内にかかりつけの病院があり、通院のときにスーパー内を散策して帰るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族さんと一緒にお買い物に出かけられます。職員と一緒に買い物をするときは、ご自身で支払をして頂きますが当方で立て替えております。所持金は全員の方お持ちではないです。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたりお手紙を書かれたりされる方はどなたもおられません。年賀状は入居者全員の方に届くようにご協力いただいている方がおられます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	みんなと話せる場所や、少し離れたところには一人用の椅子を置いています。光や温度調整もまめにし、季節感が出る様生け花も生けています。	廊下は回廊式で、その周りに居室が配置されている。食堂には、六角テーブルが置かれ、利用者に合わせて高さを調節することができる。食堂から離れた廊下の片隅にソファが置かれている。玄関に小型犬が飼われており、利用者の癒しになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れたところにも椅子が有ったり、共に話せるソファが有ったり、好きなように過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は、家族さんとご本人さんとでセッティングされます。使い慣れている物や見慣れたものをお持ちいただけるようお願いをしております。	比較的広い目の居室で、介護用ベッドが設置されている。箆箆や衣装ケース、衣紋掛けなどが持ち込まれ、壁には写真などが貼られて居心地よく暮らせるよう工夫されている。また、職員は換気に気を配り、居室内に昼間新鮮な空気が入るようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除機をかけたり、お部屋の拭き掃除等出来ることはお手伝い願ひ、喜んで頂けることはご参加いただけます。その方の持てる力を充分発揮出来る様取り組んでいます。		